

スポーツ文化の風を発信する

# NITTAIDAI

ニッタイダイ 2005年 秋

## CONTENTS

第9代学長からのメッセージ—1

特集1 ■日体大の  
地域・社会貢献活動の現状—2

行政と連携して動き出した  
学校・地域での多様な貢献活動

特集2 ■幼児教育保育科に  
改組一新—7

活躍の場が広がる保育士となる資格の  
取得に向けて

INTERVIEW ●アスリートたち—9

Active People ●社会の第一線で活躍するOB・OG—11

大学院の紹介 ●3学系の最新ニュース&レポート—13

NEWS ●05年度上半期ニュース—15

クラブ情報 ●05年度上半期クラブの主な大会成績—17

INFORMATION ●dot.NITTAIDAI—18

INFORMATION

dot.NITTAIDAI

### ■学年暦 (平成17<2005>年度下半期)

| 月           | 日(曜日)   | 行事  |
|-------------|---|---|
| 10          | 3(月)<br>3(月)~14(金)  | 後学期授業開始<br>ホームルーム期間(成績ガイダンス含む)  |
| 11          | 3(木・祝)<br>4(金)~6(日)<br>7(月)<br>12(土)  | 日体フェスティバル準備日<br>日体フェスティバル(横浜・健志台キャンパス)<br>休業日(11/6の振替)<br>体育研究発表実演会(東京大会)   |
| 12          | 17(土)~21(水)<br>22(木)~26(月)<br>27(火)~31(土)<br>22(木)<br>24(土)~  | 体育研究発表実演会(東海大会 12/17静岡 12/18岐阜 12/20三重 12/21愛知)<br>大学 スキー理論・実習(社会体育学科2年)<br>[大学 スキー指導実習(体育・健康・武道学科2年) 第1回(ニセコ)]<br>短大 スキー実習(1年)<br>12月授業終了<br>冬季休業【1/9(月)まで】  |
| 平成18年(2006) | 10(火)<br>16(月)~<br>17(火)~21(土)<br>21(土)<br>23(月)~28(土)<br>31(火)   | 1月授業開始<br>短大 教育実習1(保育科1年)[2/3(金)まで]<br>後学期定期試験期間<br>後学期授業終了(試験を含む)<br>補講・追試験・再試験期間<br>入学試験準備(関係者以外学内立入禁止 1/31~2/5試験終了まで)  |
| 2           | 1(水)~5(日)<br>11(土・祝)~20(月)<br>11(土・祝)~22(水)<br>23(木)~27(月)<br>12(日)~21(火)<br>13(月)~26(日)<br>25(土)<br>27(月)~3/3(金) | 平成18年度一般入学試験<br>[大学 スキー指導実習(体育・健康・武道学科2年) 第2・3回(志賀)]<br>短大 スキー実習(1年)<br>[大学 スケート指導実習(体育・健康・武道学科3年)]<br>短大 スケート実習(2年)<br>大学 スケート理論・実習(社会体育学科3年)<br>伝統文化交流実習・外国語実践実習(武道学科3年)<br>短大 スポーツ現場実習(体育科生涯スポーツコース1年)<br>介護等体験事前指導講習会(体育・武道学科2年 健康・社会体育学科1年)<br>[ホームルーム期間(成績ガイダンス含む)(全学年)]<br>[在学生履修申告手続き期間(大学1~3年・短大1年)] |
| 3           | 10(金)<br>11(土)~   | 卒業式(東京・世田谷キャンパス)<br>春季休業  |

### ■平成18年度入試日程 お問い合わせ先/入試広報室 TEL03-5706-0910

|               | 募集区分   | 願書受付                 | 試験日          | 合否(合格/発表)    |
|---------------|--|----------------------|--------------|--------------|
| 大学            | 推薦入試Ⅰ期   | 11/1~11/8            | 11/27(二次選考日) | 12/1         |
|               | 推薦入試Ⅱ期   | 12/1~12/3            | 12/11(二次選考日) | 12/13        |
|               | 一般入試   | 12/19~1/13           | 2/2・3・24・5   | 2/11         |
|               | 帰国子女特別選抜   | 11/1~11/8            | 11/27(二次選考日) | 12/1         |
|               | 研究生・科目等履修生・聴講生<br>編入学                              | 3/9~11<br>12/19~1/11 | 3/16<br>2/1  | 3/18<br>2/11 |
| 大学院           | 博士前期課程Ⅰ期   | 終了                   | 終了           | 終了           |
|               | 博士前期課程Ⅱ期   | 2/6~2/10             | 2/25・26      | 2/27         |
|               | 博士後期課程   | 1/10~1/13            | 2/16         | 2/17         |
|               | 研究生・科目等履修生   | 3/2~3/6              | 3/16         | 3/17         |
|               | 体育専攻科  | 3/2~3/9              | 3/16         | 3/18         |
| 短大<br>体育科     | 推薦入試   | 11/1~11/8            | 11/27(二次選考日) | 12/1         |
|               | 一般入試   | 12/19~1/13           | 2/1          | 2/11         |
|               | 帰国子女特別選抜   | 11/1~11/8            | 11/27(二次選考日) | 12/1         |
|               | 科目等履修生・聴講生   | 3/9~11               | 3/16         | 3/18         |
| 短大<br>幼児教育保育科 | 入試については、P8を参照してください。<br>平成18年度から保育科は幼児教育保育科に名称変更予定 |                      |              |              |

### ■ホームページをチェック! 広報委員会

本学ホームページアドレス  
<http://www.nittai.ac.jp/>

大学からのお知らせや、就職対策講座案内、奨学金案内、入試インフォメーションなど、さまざまな情報を発信しています。また、ニュースやイベント案内などタイムリーな情報も満載です。こまめにチェックしよ!



### ■「日本学生支援機構奨学生」採用状況

お問い合わせ先/学生課 TEL03-5706-0904  
教務局 TEL045-963-7900

#### ■奨与月額 (平成17年度採用者実績)

|     |         | 第一種 (無利子) |        | 第二種 きぼう21プラン<br>(有利子/年利3.0%以内) |
|-----|---------|-----------|--------|--------------------------------|
|     |         | 自宅        | 自宅外    |                                |
| 大   | 学       | 54,000    | 64,000 | 3.5.8.10万円から選択                 |
| 体   | 育 専 攻 科 | 54,000    | 64,000 | 3.5.8.10万円から選択                 |
| 大学院 | 博士後期課程  | 122,000   |        | 5.8.10.13万円から選択                |
|     | 博士前期課程  | 88,000    |        |                                |
| 短   | 大       | 53,000    | 60,000 | 3.5.8.10万円から選択                 |

#### ■新規採用状況 (平成17年度) 平成17年9月1日現在

|     | 応募人数   | 採用人数<br>(優べ数) |
|-----|--------|---------------|
| 大   | 476    | 448           |
| 体   | 2      | 2             |
| 大学院 | 4      | 4             |
|     | 博士後期課程 | 15            |
|     | 博士前期課程 | 14            |
| 短   | 大      | 56            |
| 合   | 計      | 553           |
|     |        | 514           |

日本学生支援機構奨学金は国の育英奨学事業で、本学で推薦している奨学金制度の中で最も採用数の多い奨学金です。現在、大学、大学院、短期大学部合わせて約2,000名がこの奨学金制度を利用しています。今年度も4月に全学生を対象に募集を行い、奨学金が決定しました。(詳細は上記の表のとおり)  
今後、家庭状況の急変、被災などの理由で急遽奨学金が必要となった場合は、早めに各キャンパスの奨学金担当(東京・世田谷キャンパス:学生課、横浜・健志台キャンパス:教務局)までご相談ください。

【NITTAIDAI(ニッタイダイ)】 発行日●2005年11月1日 発行●日本体育大学/日本体育大学女子短期大学部 広報委員会 TEL 03-5706-0921 FAX 03-5706-0919 <http://www.nittai.ac.jp/> 制作協力●(株)図書出版

[編集後記] 今号は「地域社会との交流」「社会貢献」を主テーマとして特集を組みました。取材を進めていくうちに、多くの教職員、各クラブ、各研究室においてその取組みが、多種多様にわたっていることが判りました。また同時に、本学が日々培っているKnow-howや人材の“還元”を、社会が強く求めていることを感じました。今年度から配置転換により編集担当者がかわり、不慣れななかで、快く取材に応じてくださった方々に対し、心から御礼申し上げます。いつも身近な「NITTAIDAI」であるよう編集努力していきたいと思ひます。

特集1

# 日体大の 地域・社会貢献活動の現状

～行政と連携して動き出した学校・地域での多様な貢献活動～

21世紀は地域社会の時代と言われている。

大学の社会的使命の一つとして、

教育・研究の成果を社会に還元していくことがあるが、

「大学の第三者評価」にも見られるように、

これからの時代にあっては、

教育・研究成果の社会的還元も地域社会への貢献という

視点が求められる。

大学の未来は地域社会との共生なくしては語れなくなったのだ。

本学では、より積極的に多様な地域活動・社会貢献活動を

統一的に展開していくために、

平成15年12月に「地域・社会貢献推進委員会」を設置し、

昨年度から行政と連携しながら動き始めている。

具体的に動き始めた、

本学の地域・社会貢献活動の現状を特集した。



第9代学長  
伊藤 孝  
いとう たかし

2002年11月の学校教育法の一部改正を受け、全ての大学は7年に1度、文部科学省が認証した第三者評価機関による評価が義務づけられるようになりました。少子化にともなう大学間競争と教育・研究の質が問われる評価の時代に突入したのです。本学では、2007年に第三者評価を受けることを決め、現在、それに向けて具体的な作業を進めているところです。

こうした時代にあって、本学の生きていく道は、歴史と伝統を大事にしなが、社会的評価の高い大学へと改革を進めていくことだと確信しています。その改革の方向性として、複数学部による「体育・スポーツの総合大学化」を構想しております。

本学は開学以来、110余年の歩みの中で、常に我が国の体育・スポーツの教育と研究の中核に位置してきたとの自負のもとに、有為な人材の育成と研究開発に努めてきました。そこには、様々な学問領域にまたがる総合科学としての体育・スポーツの理論研究と経験の蓄積が裏付けられています。この総合大学化構想は、そうした体育大学としての強みと特色をアピールするものとして、体育・スポーツを全て網羅した大学に日体大を生まれ変わらせようとするものです。大きな柱である「スポーツ競技力向上の学部」は横浜・健志台に、もう一つの柱である「健康福祉系、スポーツ文化社会科学系の学部」は東京・世田谷に置くことを考えています。

この総合大学化構想の実現に向けて、ハード面である施設づくりでは「深沢再開発」構想があります。5カ年計画で既存の建物全てを順次壊し、新しく建て替えていく構想です。現在、基本計画・設計が練られており、来年、着工に入る予定です。完成の暁には、機能的な建物に生まれ変わります。

ソフト面では、学生の幅広い進路を支援する「キャリア支援センター」(仮称)と、本学の特色を強く前面に打ち出して、本学の求める人材(志願者)を集める「入試センター」(仮称)の設立を考えております。キャリア支援センターでは、就職部が行っている就職情報の提供や斡旋に加え、より発展的にキャリアのスキルも修得できる講座プログラムの開設も考えています。

また、社会的評価の柱の一つとして地域貢献への取組があります。東京・世田谷、横浜・健志台の両キャンパス周辺の小学校や自治体への施設提供や、学生の技術指導員の派遣など、人的貢献も多く行っています。2003年には、地域・社会貢献推進委員会が設置されたことから、今後さらに積極的に地域貢献に力を入れていきたいと思っています。

日体大の未来を創る「体育・スポーツの総合大学化」を目指し、教職員、学生、同窓生の力を結集し、改革への不断の努力を継続していくつもりです。

日体大の未来を創る複数学部による  
「体育・スポーツの総合大学化」構想の実現を図りたい。



特集1  
日体大の地域・社会貢献活動の現状  
大学の取り組み

特集1  
日体大の地域・社会貢献活動の現状  
大学の取り組み

# 「地域・社会貢献推進委員会」を核に、地域に広がる本学の貢献活動。

本学では、短大の「幼児教育講座」に代表されるように、これまで社会貢献の一環としてさまざまな公開講座や研究発表会を実施してきたが、平成15年12月、多様な地域・社会貢献活動をより積極的に大学として展開するために「地域・社会貢献推進委員会」を設置し、昨年度から行政と連携しながら地域貢献活動に取り組み始めている。

文部科学省から「子どもの体力向上実験事業」の委託を受けている横浜市教育委員会では、昨年度から本学とその事業に取り組んできたが、今年度から小学校の体育授業、中学校の運動部活動の指導補助を行うための協定を結び、モデル事業として都筑区内の小・中学校へ学生を派遣している。派遣に際しては事前に校内研修を実施し、180名の受講修了者の内、既に約40名が小・中学校で指導期に当たっている。

## 地域貢献・社会貢献活動の推進は本学の社会的使命。



地域・社会貢献推進委員会委員長  
森川 貞夫 教授

「地域・社会貢献推進委員会」の設置は、以前から個別に行われてきた本学の地域貢献・社会貢献活動を一本化し、スポーツ科学を中心とした教育研究の成果を社会的に還元してゆくと、本学の社会的使命を、さらに積極的に全教職員の総力で推進していくための一歩となるものです。

その成果として、指導補助者派遣事業に関する協定を横浜市、神奈川県、世田谷区、目黒区との間で結ぶことができ、今年度から学生が指導者に入っています。学生派遣に際しては、大学として責任を果たせるよう、事前に校内研修を実施しています。学生にとっては、教育実習とは異なる学校現場での体験は大きな財産になるはずで、教職員の高齢化が進む学校現場においては、実技に優れた現役学生の若さ・情熱は良い活性化となるでしょう。また、我々教員にとっても地域・社会貢献活動は、地域・社会における体育スポーツの課題や問題点を生で把握できるメリットがあります。

### 横浜市との連携



横浜市教育委員会事務局  
生涯学習部 部次長スポーツ課長  
久代 雅之 さん

上りができるようになった」との声も届いています。また、中学では、従来2時間だった部活の時間が、生徒の強い要望で3時間に延びた例もあります。生徒も良い刺激を受けているのです。

### 世田谷区との連携



世田谷区教育委員会事務局  
地域・学校連携課 担当係長  
鈴木 敦 さん

運動などの支援のために学生を派遣して、いただく事業が、月々始まりました。既に、連合運動会でのアシスト、小学生への運動の実技指導補助、野球、テニス等の部活実技指導補助などで活躍されています。

日本体育大学の学生の皆さんには、スポーツを通じて体を動かすことの喜びやスポーツの面白さ、達成感などを子どもたちに伝えてほしい、と期待をしています。教員志望の学生にとっても、学校現場での経験は将来のために役立つと思います。今後も様々な形で連携をしていく方向で、包括的連携を進めていきたいと思っています。

## 大学の連携の仕組みを定着させ、都筑区以外の区にも広げたい。

日体大と連携した都筑区でのモデル事業は、今年5月からスタートしばかりですが、とても好評です。ある小学校からは、教え方が分かりやすく「運動から、教え方が分かりやすく」運動上りができるようになった」との声も届いています。また、中学では、従来2時間だった部活の時間が、生徒の強い要望で3時間に延びた例もあります。生徒も良い刺激を受けているのです。

## 身体を動かす喜び、スポーツの面白さ、達成感を子どもたちに伝えてほしい。

世田谷区教育委員会と日本体育大学で締結した連携に関する基本協定と覚書に基づき、世田谷区の区立小・中学校等で、授業や学校行事、また部活などで、授業や学校行事、また部活実技指導補助など活躍されています。

### 地域・社会貢献活動の事例

#### 実技指導補助者派遣事業

#### 小学校の体育授業・中学校の部活を学生がサポート。

本学と横浜市教育委員会の学生派遣についての協定書に基づき、本年5月より都筑区内で、学生たちが小学校の体育授業や特別活動の実技指導補助、中学校の部活活動の指導補助を行っている。既に、約40名が小学校7校、中学校7校で指導に当たっているが、授業の関係もあり、3、4年生がほとんど。派遣に当たっては、事前に校内研修を受講しなければならぬ。小学校の場合は、体育の授業の中でアシスタントとして、ト運動などの実技を見せ、中学では、陸上・サッカー・野球・バスケ等の部活で技術指導に当たっている。生徒と年齢も近く、専門的な指導を受けられるので、生徒には大変喜ばれている。



#### 幼児教育講座

#### 14年の歴史、幼児教育者を対象とした講座。

毎年7月末に東京・世田谷キャンパスで開催される公開講座「幼児教育講座」(後援：世田谷区教育委員会)は、本学の公開講座の走り、14年の歴史を誇る。講座開設の意図は、幼稚園教諭となつた保育科の卒業生に対するアトキアケとして勉学の機会を設けることであつたが、地域の幼児教育で携わる人も対象としている。当初は、定員50名を割り込む年もあつたが、現在は、80名を超えるほど講座の認知度が浸透し、地域の講演実技者の2本立てが、受講者には体を動かして汗を流す「運動遊び」が人気であつた。参加費は無料。

#### 「みんな集まれ！元氣な子！」

#### 親子の触れ合いの時間をつくる、真冬の運動会。

「みんな集まれ！元氣な子！」は、「地域・社会貢献推進委員会」が企画、募集した学生による地域・社会貢献プロジェクトで採択されたもの一つとして、東京・世田谷キャンパスで昨年度から始められたもの。地域の就学前の6歳児までを対象に、親子の触れ合いの時間をつくるというテーマから、幼児体育ゼミの3年生の男女が中心となり2時間のアトラクションを企画、運営した。パン食い競争や「綱引き」などは、彼らの発案である。真冬の2月に開催する理由については、企画責任者の時本久美子教授によれば、家に引きこもりがちで運動をしない時期だからとのこと。50人の募集に対し60人を超える児童が参加、保護者も含めると100人を超える盛況だった。来年の2月も開催を予定している。

#### 世田谷区スポーツ振興財団との連携

#### 区民に広げるスポーツの喜び・楽しさ。

本学と財団法人世田谷区スポーツ振興財団との連携は古く、昭和35年から始まった「区民スポーツ祭」の時から続いている。以下の大きな事業を開催する際は、さまざまなクラブから日体大生がお手伝いに参加している。

- 健康マラソン大会
- 区民スポーツ祭
- 夢・子どもスポーツ遊園地
- 障害者スポーツ交流デー

今年で2回目となる「障害者スポーツ交流デー」は、9月24日(土)祐公園近くの東京厚生年金スポーツセンターで開催された。財団法人世田谷区スポーツ振興財団の主催(世田谷区教育委員会の共催)だが、野村ゼミの学生16人が中心として企画、運営協力を当てる。障害のある人もない人も、同じ場所で一緒にスポーツを楽しむ、という趣旨から始まった。世田谷区内の障害者施設の人をはじめ、友人・家族、さらには区外の人も多数参加している。この交流デーが「多の方々との交流のきっかけ」となり、スポーツを通じて交流の輪が広がっていく、がとても嬉しいと、地域・社会貢献推進委員会の委員でもある野村一助教授は語っている。

| プロジェクト名                                   | 概要  | 実施場所                      | 団体・組織          |
|---|---|---------------------------|----------------|
| 「バリアフリー」(障害者・高齢者の自立生活支援システム)に関する地域づくりについて | 「健康で良い町」診断～ササエさん通りを中心に～   | 桜新町ササエさん通り                | 富島ゼミ(社会福祉学研究室) |
| 日体ユニバースクラブ                                | 6～15歳までの子どもを対象に、発達を通して「知・情・意」のバランスのとれた人間育成を目指す。[H16.11～H17.2]                                       | 東京・世田谷キャンパス(山田道)          | 柔道部            |
| みんな集まれ！元氣な子                               | 発達障害がなくないが冬の時期に、子ども達が楽しく、思いっきり体を動かすことをねらいとし、「小運動会」のように仲間と競争することを楽しみながら、親子と一緒にすごすことを目的とする。[H17.2.19] | 東京・世田谷キャンパス(山田道) 桜球場 クラウド | 幼児体育ゼミ         |



特集1  
日体大の地域・社会貢献活動の現状  
**体育研究発表実演会**  
(地方実演会)

特集1  
日体大の地域・社会貢献活動の現状  
**学生の取り組み**

さまざまにクラブ・サークルで行われている  
知られざる地域貢献活動。

例年行われている日体フェスティバルでの子ども向けスポーツ教室の開催や、フリーマーケットへの施設開放など、学生による地域・社会貢献活動はよく知られている。しかし、60を超え  
るクラブ・サークル単位での地域貢献活動が盛んに行われていることは、実はあまり知られていないのではないだろうか。

**大田区立嶺町小学校と葛飾区でカヌー教室を開催。**

カヌー部では、カヌースポーツの普及・振興と、多摩川にカヌーセンターを設置するため地域住民の理解を得ることを目的に、以前より、ボランティアや社会貢献活動を行ってきたが、04年から大田区立嶺町小学校でカヌー教室を開催している。夏休み期間中の8月、同小のプールで1年から6年までの児童に1時間ほど教える。100人前後が参加し、子ども、父母にも評判がいい。また、葛飾区においても、小学生を対象に「葛飾カヌー体験教室」を開催している。国土交通省の外部団体である河川環境管理財団の「子どもの水辺安全ポータルセンター」団体登録へ参加し、「子どもの水辺安全講座」などの協力もしている。

カヌー部部長  
**阿部 茂明 教授**

**バスケットボール部**

バスケットボール部では、オフシーズンや試合のない時、東京・世田谷キャンパス内の体育館でバスケットボール教室を開催している。地域から愛されるチームとして部の試合に地元深沢の小中学生をまねがし、の思いから始め、今年で4年目になる。1軍の4年生をメインに指導に当たっている。また、学外でも地元深沢中央商店街や等々力小学校の盆踊り大会でボランティア活動をしており、そのつながりから区立東深沢中学校を拠点とした総合地域スポーツクラブの「東深沢スポーツ文化クラブ」では小谷・山下両君が中心になって中高校生にバスケットボールを教えている。

バスケットボール部のH.D. <http://www.nssu-grizzly.net>

硬式野球部・世田谷区の少年野球教室での指導  
サッカー部・子ども向けのサッカー教室の開催(日体フェスティバル時)  
柔道部・子ども向け柔道教室の開催  
体操競技部・子ども向け体操教室の開催  
ライフ・ヒービング部・海浜の監視活動/救助訓練と救命法の指導  
陸上競技部・高校生の記録会の開催(陸運公団の競技場での、公認記録になる)  
レスリング部・青葉区内の子どものレスリング教室での指導  
キャン・イン・イースト・アカデミー・地域の子どもへの野外教育活動の支援  
社会体育研究会・地域の障害児施設や団体の運動会・行事等の支援

体育学科1年  
**山下 貴純**

大学院博士前期課程2年  
**小谷 究**

**2005 日体フェスティバル**

もう一つの地域貢献活動としての学園祭。

横浜・健志台キャンパスにおいて開催される学園祭「日体フェスティバル」では、地域住民との交流を深める目的から、施設を地域に開放しています。例えば、野球場を少年野球の試合に開放するだけでなく、ボールボーイやアナウンスも務めたり、フリーマーケットには地域で採れた野菜の即売店も参加しています。

フェスティバル自体も、39回目を迎える今年は、テーマである「融合」ということから、大学と地域住民との融合を求め、より地域住民が参加しやすいコーナーを数多く企画しています。特に、横浜市で子どもの体力向上のための取組が、行政・家庭・学校・地域等の連携のなかで求められていることから、子どもの参加型プログラムを企画しています。

＜地域住民参加型のプログラム例＞

- 子どもの運動能力と屋内フィールドアスレチック：子どもの体力向上の方策として、フィールドアスレチックを使いながら遊び感覚で体力測定をする。
- 講演～子どもの足と靴の健康：トッパースリートの足の形と靴の型の相関性を講演するとともに、子どもの靴を選ぶ際に、どう選べばよいか悩んでいる方に靴のカウンセリングを実施。
- フリーマーケット：地域住民の出店
- 福祉協会のエイズキャンペーンへの協力
- 地域ボランティアの模擬店
- 禁煙運動や献血運動への協力
- サッカー教室
- テニス教室

2005日体フェスティバル  
実行委員長  
**中井 睦**  
(健康学科2年)

大学と同窓会とを結ぶ接点であり、  
地域社会にスポーツの魅力と素晴らしさを伝える。

第1回体育研究発表実演会が開催されたのは1954年8月26日。地方実演会が実施されたのは、その翌年の55年。以来、休演する年がしばしばあったが、01年から8年に1度開催している。この間、北は北海道から南は沖縄まで83を数える会場で、日頃の研究や鍛錬の成果を広く発表すると共に、スポーツの魅力や素晴らしさを地域社会に直接伝えてきた。

**どの地域でも会場が一体となって感動を共有する。**

実演会の第1回目は1954年9月26日で、会場は東京体育館でした。現在は実演会の実技の主役は学生たちですが「体育研究発表」の名が示しているように、かつては実技担当教員の研究発表の場で、全クラブが参加し朝から晩まで一日中発表をしていました。地方実演会が最初に実施された地は北海道で、50年前です。以来、地域をアロク別に分け、北は北海道から南は沖縄まで行っています。演ずる学生たちのエネルギーを前に、どの地域でも会場が一体となって感動を共有します。地方実演会が学生の日頃の修練の成果を発表すると共に、スポーツの魅力と素晴らしさを地域社会に伝える大切な場となっていることが頷けます。

2001年から地方実演会が2年に1度になりました。実演地の選定は立候補する地方の同窓会と調整して決まります。招致する側の同窓会は1年前から準備しなければならず、大変ですが、大学と卒業生との貴重な交流の場ともなっています。今回の実演会では、準備へなきたなが登場します。また、なきたの演武の後、なきたと剣道の試合を組んでいますので、ぜひご期待ください。

体育研究発表実演会実施委員長  
**伊藤 直樹 教授**

地方実演会では、全国各地の同窓会と大学とを結び重要な接点であり、数少ない交流の場として捉えることができます。愛知県での実施は、20年ぶり4回目です。同窓会員の帰属意識や結束力を高める上でも大きな意義があります。加えて、日体大のトータル的なパワーや、学生たちによる演技の感動をより多くの一般観客と共有することは素晴らしいことですね。

また、地方実演会では、日体大が目指す教育理念とそれに基づく日頃の研究や鍛錬の成果を広く地域社会に周知させるまたとない機会であり、とりわけ小・中・高校生に与えるインパクトは計り知れないものを秘めています。スポーツの魅力や素晴らしさを青少年が直接体感できる絶好の場として、練習場所の確保が難しく、当時の本館前のスペースを利用して「詩吟舞踊」の振り付け練習を繰り返した往時が懐かしく甦ります。学生時代のかけがえない思い出のひとつです。

地方実演会では、全国各地の同窓会と大学とを結び重要な接点であり、数少ない交流の場として捉えることができます。愛知県での実施は、20年ぶり4回目です。同窓会員の帰属意識や結束力を高める上でも大きな意義があります。加えて、日体大のトータル的なパワーや、学生たちによる演技の感動をより多くの一般観客と共有することは素晴らしいことですね。

また、地方実演会では、日体大が目指す教育理念とそれに基づく日頃の研究や鍛錬の成果を広く地域社会に周知させるまたとない機会であり、とりわけ小・中・高校生に与えるインパクトは計り知れないものを秘めています。スポーツの魅力や素晴らしさを青少年が直接体感できる絶好の場として、練習場所の確保が難しく、当時の本館前のスペースを利用して「詩吟舞踊」の振り付け練習を繰り返した往時が懐かしく甦ります。学生時代のかけがえない思い出のひとつです。

地方実演会 東海大会 招致責任者  
愛知県同窓会長  
**丸山 益生 さん**  
(1958年3月体育学科卒)

地方実演会では、全国各地の同窓会と大学とを結び重要な接点であり、数少ない交流の場として捉えることができます。愛知県での実施は、20年ぶり4回目です。同窓会員の帰属意識や結束力を高める上でも大きな意義があります。加えて、日体大のトータル的なパワーや、学生たちによる演技の感動をより多くの一般観客と共有することは素晴らしいことですね。

また、地方実演会では、日体大が目指す教育理念とそれに基づく日頃の研究や鍛錬の成果を広く地域社会に周知させるまたとない機会であり、とりわけ小・中・高校生に与えるインパクトは計り知れないものを秘めています。スポーツの魅力や素晴らしさを青少年が直接体感できる絶好の場として、練習場所の確保が難しく、当時の本館前のスペースを利用して「詩吟舞踊」の振り付け練習を繰り返した往時が懐かしく甦ります。学生時代のかけがえない思い出のひとつです。

**第47回体育研究発表実演会**

＜テーマ＞：雷大 ～精神と身体の未来～

【地方実演会の変遷】

|       |                         |
|-------|-------------------------|
| 1955年 | 北海道                     |
| 1957年 | 岐阜県/大阪府                 |
| 1958年 | 大阪府/愛知県/神奈川県            |
| 1962年 | 山口県/福岡県/熊本県/大分県         |
| 1966年 | 宮城県/秋田県/青森県/岩手県/山形県/福島県 |
| 1969年 | 神奈川県                    |
| 1970年 | 静岡県/岐阜県/三重県/愛知県         |
| 1981年 | 福岡県/熊本県/鹿児島県/広島県        |
| 1982年 | 香川県/徳島県/高知県/愛媛県         |
| 1983年 | 山口県/鳥取県/島根県/岡山県         |
| 1984年 | 和歌山県/滋賀県/京都府/大阪府/兵庫県    |
| 1985年 | 神奈川県/静岡県/愛知県/岐阜県/三重県    |
| 1986年 | 新潟県/富山県/石川県/福井県         |
| 1987年 | 茨城県/栃木県/群馬県             |
| 1988年 | 千葉県/福島県/宮城県/山形県         |
| 1989年 | 岩手県/青森県/秋田県/北海道         |
| 1991年 | 沖縄県                     |
| 1992年 | 宮城県/鹿児島県/熊本県            |
| 2001年 | 福岡県/大分県/佐賀県/長崎県         |
| 2003年 | 北海道                     |

＜実演会日程＞

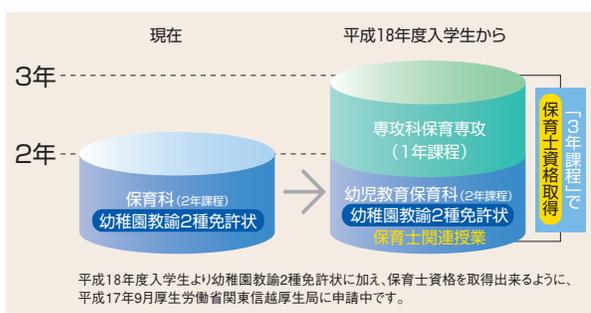
■東京大会 11月12日(土) 国立代々木競技場第一体育館  
静岡大会: 12月17日(土) 小笠山総合運動公園エコパアリーナ  
岐阜大会: 12月18日(日) 岐阜アリーナ  
三重大会: 12月20日(火) 三重県営サンアリーナ  
愛知大会: 12月21日(水) 愛知県立体育館

＜プログラム＞

1. オープニング
2. チャレンジ
3. なきたと剣道
4. 体操
5. アルティメット
6. みんな一緒に!
7. トランポリン
8. 伝統芸能(和太鼓)
9. 集団行動
10. 体操競技
11. ダンス
12. エッサッサ
13. フィナーレ

# 平成18年度、保育科を 幼児教育保育科に改組一新!!

～活躍の場が広がる保育士となる資格の取得に向けて～



■学びのしくみ



体育大学の短大としての特徴を活かし、心理・保育専門に関する理論と、実践的な音楽・器楽、幼児体育などによって編成されます。  
既存の1・2年次の科目に保育士関連の科目を加え、さらに、1年課程の専攻科保育専攻を設置し、3年課程で保育士の養成を行います。

■日本体育大学女子短期大学部幼児教育保育科の入試について

本学保育科(平成18年度から幼児教育保育科に名称変更予定)では、従来から幼稚園教諭免許が取得可能でしたが、新たに平成18年度から専攻科保育専攻(1年課程、学生受け入れは平成20年度から)を設け、3年間での教育により、保育士資格の取得が可能な「指定保育士養成施設」設置のための申請をしています。  
このため、幼児教育保育科の入学試験は厚生労働省の承認後となり、例年11月に実施していた推薦入試、帰国子女特別選抜入試は、この時期に実施しないこととなりました。なお、幼児教育保育科の試験実施内容・方法等はおおむね12月中旬頃発表しますが、決定次第、本学のホームページ等を通じて、お知らせいたします。  
また今後も、経過等についてお知らせいたしますが、不明な点がある場合は、本学入試広報室までお問い合わせください。  
なお、学生募集要項(入学願書)を希望される方は、決定後、送付しますので、入試広報室へあらかじめお申し込みください。

日本体育大学女子短期大学部 入試広報室  
電話 03-5706-0910 FAX 03-5706-0996  
E-mail: nyushi@nittaidai.jp



取得できる免許と資格について

- 幼稚園教諭2種免許状  
幼稚園は、学校教育法に位置づけられた、3歳児〜小学校入学までの幼児が利用する教育機関で、仕事に就くには幼稚園教諭2種1種の免許状が必要です。本学では、幼稚園教諭2種免許状に必要な教科に関する科目と教職の科目及び体育大学としての本学の特性を活かした科目を履修して免許を取得します。遊びや活動を通して、幼児の自主性、協調性、創作力、表現力の発達を助長するのが幼稚園教諭の仕事です。
- 保育士資格  
保育園は、児童福祉法に位置づけられた、0〜5歳までの乳幼児が利用する児童福祉施設で、仕事に就くには保育士の資格が必要です。幼稚園の先生と混同されますが、保育士は厚生労働省所管の国家資格で、任務が異なります。働く親に代わって子どもを保育することにも、必要に応じて親や家庭に助言や支援を行う、地域の子育ての中核を担う専門職です。職場は、公私立の保育所(園)をはじめ、乳児院や児童養護施設、母子生活支援施設、心身に障害のある児童のための施設などの他、近年は病院や企業内の託児所など多様です。

授業が濃密になり、より資質の高い幼稚園教諭の育成が可能に。

短期大学部長  
井筒 次郎



井筒 ●保育士資格は厚生労働省の所管になるので、カリキュラムは一変し、3年間の積み上げ式になり、1年次から保育所や社会福祉関係施設での保育士関連の実習が多くなります。そのため、2年課程のカリキュラムも変わるのでしょうか？

【INTERVIEW 保育科改組を聞く】

—平成18年度から保育科が改組されるらしいですが、どのように変わるのですか？  
井筒 ●現在の保育科の名称が「幼児教育保育科」へ変更され、その上に保育士となる資格の取得に向けて1年課程の専攻科保育専攻が新設されます。来年4月からスタートできるという、厚生労働省関東信越厚生局に申請中です。認可が下りますと、2年課程では幼稚園教諭2種免許状、3年課程ではそれに加えて保育士となる資格が取得できるようになります。  
—専攻科保育専攻新設の背景と理由は？  
時本 ●本学の保育科は就職率が非常に良く、私立幼稚園には希望者全員が就職しますが、公立幼稚園は少数です。近年、行政では幼稚園と保育園との2つの機能を一体化する方向にあり、公立の幼稚園と保育園では幼稚園教諭と保育士の2つの免許資格がなければ採用しないところもあるのです。そのため、卒業後、保育士の資格を取るために専門学校に進む卒業生がこの数年少しずつ増え、資格の取得できるコースの開設が要望されていたからです。この設置により、金額だった両方の資格が取得できるようになる訳です。  
—2年課程のカリキュラムも変わるのでしょうか？  
井筒 ●保育士資格は厚生労働省の所管になるので、カリキュラムは一変し、3年間の積み上げ式になり、1年次から保育所や社会福祉関係施設での保育士関連の実習が多くなります。そのため、2年課程のカリキュラムも変わるのでしょうか？

—2年課程でも授業内容が濃密になり、より資質の高い幼稚園教諭の育成が可能になると伺えます。専攻科保育専攻の設置により、保育士となる資格の取得が可能なことと伺えます。井筒 ●2年課程だけで幼稚園教諭として働き、人や学部の編入を希望している人など、もちろん2年課程だけでも卒業することはできます。しかし、専攻科を含めた3年課程で学ぶことを前提に入学してほしいと願っています。但し、要望の多かった卒業生の専攻科の編入は、カリキュラムの相違から残念ながらできません。  
—保育士の仕事の社会的期待度は？  
時本 ●女性の社会進出や母親の意識の変化による低年齢層受け入れ保育所の倍増、延長保育や預かり保育の必要性の増大など、保育士の仕事の領域は今後ますます広がっていくことでしょう。保育士は、保育の専門家として大いに期待されています。  
—どんな保育士を育成するのが、新設される専攻科の特色を？  
井筒 ●全国には保育士となる資格を取得できる大学、短大は多くありますが、本学専攻科の特色は、校名が示すように体育大学系の特徴を活かし、生き生きとして明るく元気で、子どもたちと一緒に身体を動かせる保育者を育成するところにあります。

念願の幼稚園教諭免許に保育士となる資格をプラス。  
保育科長  
時本久美子



幼児教育保育科に改組一新

平成18年4月、日本体育大学女子短期大学部に「専攻科保育専攻(1年課程)が新設され、現在の保育科は「幼児教育保育科」に名称変更されます。これにより、幼稚園で教育活動にあたる幼稚園教諭、保育所などで子どもを養育する保育士、その両方の資格取得が本学でも可能になるように、卒業後に活躍できる範囲を大きく広げることができると期待されています。  
「保育士」資格は、地域の子育ての中核を担う専門職として保育士の需要が高まっていることが背景です。平成15年11月の法改正により、児童福祉施設の任用資格から名称独占資格に法定化された資格です。厚生労働省の国家資格で、保育園(所)などの児童福祉施設で子どもたちを保護・育成するための仕事です。  
保育士の合格率は、例年10%前後と極めて難関なため、無試験で資格を取得できる厚生労働大臣指定の保育士養成校(大学短大・専門学校)を卒業するケースが一般的です。本学は、来年からその指定養成校になります。  
3年課程が原則ですが、もちろん、幼稚園教諭の資格を取得して2年間で卒業することも可能で、それぞれの進路目標に合わせて学ぶことができます。  
共働き家庭が増加している現在、保育士は、家庭と地域の子育ての機能の低下や少子化、子育て環境の変化に対応できる保育の専門家として、大いに期待されており、保育所以外にも活躍の場は多岐です。

“執着心”が自分のプレーの特徴。誇りを持って国を代表して戦う。



【ラクロス部】

## 松井 理紗

(健康学科4年)

1チーム12人。110m×60mのグラウンドを駆け回り、高さ・幅1.83mのゴールを目指すラクロス。その日本代表選手として活躍を続ける松井さんは、6月に行われた世界大会において、日本が過去最高の5位の成績を取る原動力となった。ここ数年、競技人口が急激に増え続けるラクロス。国内のトッププレーヤーの素顔に迫った。

—松井さんが進学先に日体大を選んだのには大きな理由があるそうですね。

**松井**●高校時代から大学では是非、社会福祉の勉強をしたいという考えがあり、日体大には社会福祉を学べるコースがあると知って志望しました。何よりも、体育・スポーツと合わせて学べる点が決め手でした。来年は大学院に進学して、さらに社会福祉の勉強を進めていこうと思っています。

—大学に入ってから、ラクロスを始めたそうですが。

**松井**●日本では大学入学前からプレーを始める人はほとんどいません。私も高校時代に母校に教育実習に来ていた日体大の先輩がラクロス部だったことで興味を持ちました。中学、高校時代はバスケットボール部でした。ですからラクロスはルールを覚えるところから始めました。最初はうまくプレーすることが出来ず落ち込むこともありましたが、とにかくひたすら練習しました。

—現在の練習スケジュールを教えてください。

**松井**●週4回、朝7時過ぎからの練習を含め一日3時間程度です。早起きして練習に行くことも最初は戸惑いましたが、今は慣れました。ラクロスも徐々にですが認知されてきて、最近は部員の数も増えて現在80人以上います。

—ラクロスの魅力はどのあたりにあるのでしょうか。

**松井**●色々あるかとは思いますが、チーム全体で戦術、作戦を考えてそれが上手く決まった時などは気持ちがいいですね。広いグラウンドで自分たちの気持ちが高まって表現できたときはやはり嬉しいです。

—自分のプレースタイルの特徴を分析してください。

**松井**●日本代表と日体大では任されるポジションが違うのですが、共通しているのはボールに対する強い執着心でしょうか。絶対に諦めない姿勢は日本のどの選手にも負けません。

—初めて日本代表選手に選出されたのはいつですか？

**松井**●まず1年の冬にU-19代表に選出されました。そのあと、2年の時に初めて日本代表に選ばれました。代表に定着してきたのは3年生になってからですね。

—競技を始めたばかりで日の丸を付けたのですね。

**松井**●そうですね。自分でもその“出世”ぶりには驚きました。ただ、代表選手に選ばれてもおかしくないだけの練習をこなしてきたという自負はあります。ラクロスを始めた段階で日本代表になるという目標がありましたから。日本代表としての誇りを海外の大会では特に強く感じます。試合前にセレモニーで「君が代」が流れたりするのですが、それもまた感動の瞬間です。

—現在は秋のリーグ戦の最中だそうですね。

**松井**●そうですね。学生最後の大きな大会ですので、優勝したいという願望ではなく絶対に優勝するという意気込みで臨んでいます。日体大は関東大学リーグ戦で優勝したことがなくて、2位がこれまでの最高なです。それだけに今年は初優勝を絶対に実現したいと思っています。あっ「したい」ではなく「する」ですね。とにかく今はそれだけを考えています。

—松井さんにとってラクロスとはどんな存在でしょう。

**松井**●大きな財産でしょうか。ラクロスをやっていなければ、味わえなかった瞬間がこの4年間にたくさんありました。ラクロスをいつまで続けるかは分かりませんが、自分が納得するまでは続けていきたいと思います。

—将来の目標を聞かせてください。

**松井**●やはり福祉の仕事に就きたいと考えています。現在は大学院進学と同時に、社会福祉士の資格取得も目指しています。これも目指すだけでなく、是非実現させたいと思っています。

(2005.9.22横浜・健志台キャンパスにて)

### PROFILE●まつい・りさ●

1984年生まれ  
私立森村学園高校出身  
ポジションはミッドフィールダー。攻守における運動量は日本最高レベル。  
現在の目標は1年時2位、2年時3位、3年時2位と苦杯をなめ続けている関東大学リーグでの優勝。初めて日本代表に選ばれた時は「嘘かと思った」。



記録更新の快感は何物にも代えられない。日本一速い男の挑戦は続く。

【陸上競技部】

## 佐分 慎弥

(体育学科1年)

6月に行われた日本選手権。TVでも全国放送された注目の100m決勝で史上最年少優勝という快挙を成し遂げたのが、佐分慎弥君。ここ数年、急激に世界との差を縮めている日本短距離界期待のホープだ。残念ながら世界陸上出場はならなかったが、佐分君の目はすでに世界を射程圏内に捉えている。日本で一番“速い”男の素顔をのぞいた。

—佐分君が本格的に陸上を始めたのはいつごろでしょうか？

**佐分**●中学時代からです。小学校のときから足が速かったので、部活の選択には迷いませんでした。最初に100mの記録を計測したときは12秒8くらいだったかなと思います。中学3年生の時には10秒90まで記録が伸びていました。

—高校に入るとさらに記録が伸びましたね。

**佐分**●中学時代は全国4位が最高成績だったのですが、高校ではインターハイで優勝できましたし、3年生の時には10秒47まで自己ベストを更新できました。この頃には大きな大会に出ても、精神的に臆することがなくなりました。その精神面での成長が記録の伸びに大きく影響したと思っています。今もほどのことがない限りは大会で緊張することはないです。

—その後、日体大へ進学します。

**佐分**●現在の監督である水野先生から、強く熱意のある勧誘を受けたことが大きかったです。それと自宅から学校までの距離が近いので、トレーニングが終わったあとにすぐにリラックスできる環境も魅力でした。今季の好調の要因の一つに挙げられると思います。

—そして大学入学直後の日本選手権で強豪を押ししのけ優勝という偉業を達成しましたね。

**佐分**●まさか優勝できるとは正直思っていませんでした。決勝に残って、ユニバーシアード大会の代表選考にアピールできればいいというリラックスした気持ちでレースに臨めたことが好結果を生み出したのかもかもしれません。優勝した瞬間は何が何だか分からなくなって、直後のTVインタビューでは訳の分からないことを言ってしまうたね(笑)。史上最年少優勝と聞かされて、後からすごいことをやったんだという実感が湧いてきました。

—日本一になったことでヘルシンキでの世界陸上に出場予定でしたが、残念なことに直前の大会でアクシデントが発生してしまいましたよね。

**佐分**●そうですね。ヘルシンキでは思い切ってやってみようと考えていたのですが、7月の日本学生対抗陸上でけがをしてしまい、出場を辞退することになってしまいました。残念な気持ちはもちろんあったのですが、切り替えてけがを治すことに専念しました。世界陸上はTVで見えていたけど、自分が出ているという気持ちでみることはありませんでした。今はけがも治って本格的な練習を再開しています。

—大学生生活のことも聞きたいのですが。

**佐分**●高校時代とは授業の内容も違って面白いです。それとクラスメートの他競技の選手などと話すことで、たくさんの刺激を受けることができます。—トレーニングから解放されてオフになると、どんな感じの生活を送っているのですか？

**佐分**●普通の大学生と変わらないうです。趣味の音楽を聴いたり、TVでサッカー中継を見たりしています。友だちとTVゲームをやったり、出かけたりするのも楽しみのひとつですね。

—トレーニングのストレスを溜めないように、オフは常に気分転換にあてています。

—陸上が辛いと感じたことはないですか？

**佐分**●もちろん辛い瞬間はありますが、それを越える楽しさがありますので。記録を更新できた瞬間の喜びがある限り、陸上を辞めたいとは思いません。

—佐分君のこの先の目標を教えてください。

**佐分**●大学4年の時に迎える北京五輪での活躍ですね。やはり子どものときから五輪は世界最大の大会だと思っていますから。メダルですか？まだそこまでの自信はありません。自信が付いたときにメダルを取りたいと宣言しています。

(2005.9.22横浜・健志台キャンパスにて)

本紙表紙を飾る



### PROFILE●さぶり・しんや●

1986年生まれ  
神奈川県立在田高校出身  
今年6月の日本選手権で優勝、日本短距離界期待のホープ100mの自己ベストは10秒33。周囲は日本人未到の9秒台達成への期待も高まるが、本人は「もう少し先の話」と冷静。好きな音楽はレゲエ。今季の目標は11月にマカオで行われる東アジア選手権での優勝。

少子高齢化、医療費高騰など問題の多い21世紀で、健康づくりを求める動きは活発になっている。10年後には4人に1人が高齢者という状態が予想され、出生率は毎年減少傾向にある。全体としては健康で長生きの人が増えたとはいえ、病気や怪我などで介護を受ける高齢者も多くなる。有吉さんは、本物の健康づくりを目指し、様々なプログラム開発や「介護されない身体づくり」というテーマの講演などを行なっている。

「日体大で学んだことが、私の基本です。トレーニング論、ストレッチング、スポーツ心理、解剖生理学等々。私自身は陸上競技出身でしたが、成績が伸び悩み、いかに筋肉を強化して、いかに速く走れるかとそのことばかり考えていましたが、それをきっかけによく勉強しました。そのときに勉強したことが今活かしているのです。介護されないとは健康であること。健康であるとは、からだの調子が良いことです。私は高齢者の方をはじめ、怪我をした運動選手、成績が伸び悩み、日体大当時の私のようなアスリートの相談にのり、科学的でかつ解りやすい改善方法や運動方法を提示し、気持ちよく続けられるプログラムを提案しています。その基本が、大学時代に勉強したところにあるのです。」

大学卒業後も、日体大のネットワークを最大限に活用しているという。日体大のメンバーと仕事をすることが圧倒的に多く、つねに先輩・後輩とのコミュニケーションを図っているそうで、「いまだに校歌も寮歌も一緒に歌います」と笑う。

バイタリティあふれる有吉さんは、今年の7月に「和風フィットネス健屋(すこやかや)」を東横線の祐天寺にオープンした。

「いつまでも健康でいたいという思いはあっても、運動をしても効果がでない、ストレスで運動どころではないという方々が、ここのお客様たちです。もちろん、世界を狙うトップアスリートも来ますが、慢性的腰痛やひどい肩こりで悩んでいる方も来ます。最大の特徴は、治療ではなく、自力で解決することです。鍛えることだけではなく、からだの調子を整えることがコンディショニングです。成果は着実に上がっています。」

プログラムとしては、癒し系の「エアロフィットセラピー」、リバウンドしないダイエットプログラム「スマートエクササイズ」を開発し、ここに集まる人々のコンディションに合わせて提供している。

「3年ほど前に、スーパー銭湯の経営者から、銭湯でフィットネスをやってほしいとの依頼を受けました。私は仕事を請けましたが、内心不安でした。フィットネスに対しては全く無関心な客層相手ですから。ところがこのスーパー銭湯に集まった人は、約10万人。スポーツ選手たちも大勢訪れた。成果は上がる一方であるにもかかわらず、経営方針が異なる方向になったところで、急遽スーパー銭湯はこの3月に閉店となった。」

「この10万人もの参加者の方の後押しがあって、私は自信がついて、自分の集大成をつくる決心をしました。」

こうして有吉さんが描く、日本流フィットネスクラブが完成した。百聞は一見にしかず。本物の健康づくり、コンディショニングの大切さをぜひ体感してみたいものだ。

(10月11日、健屋(すこやかや)にて取材)

**PROFILE ●ありよし・よしえ●**

1960年福岡県生まれ  
高校時代より陸上競技部に活躍。卒業後は、地元北九州市の教育委員会・体育課に勤務し、全国に先駆けエアロビス教室を開催する。その後、久留米市初のスポーツクラブでチーフインストラクターとなり、アスリートのトレーナーを志望して上京。以降、各方面で活躍し、1994年に株式会社ハースコーポレーションを設立。社名のハース(HAERTH)と、「地球規模(EARTH)」に、心ある(HEART)健康づくり(HEALTH)を目指す、プロフェッショナル集団として人々に貢献する」の意。本年7月に和風フィットネス「健屋(すこやかや)」をオープン。現在は、コンディショニングのパーソナル指導に力を入れている。

和風フィットネス「健屋(すこやかや)」 <http://www.sukoyakaya.jp/>

10万人の参加者の声に後押しされて、日本流フィットネスクラブを完成させる。



## 有吉与志恵さん

株式会社ハースコーポレーション 取締役副社長  
株式会社 fitness.co.jp 取締役副社長  
日本コアカンディショニング協会 常任理事  
社団法人日本エアロビクフィットネス協会 代議員

[1983年3月体育学科卒業]



## 山口 良治さん

京都市スポーツ政策顧問  
京都アクアリーナ館長  
浜松大学教授  
京都市立伏見工業高校ラグビー部総監督

[1965年3月体育学科卒業]



教育とは愛を育て、生きる力を伝えること。ラグビーを通して子どもたちにもそれを体験させてあげたい。

「スクールウォーズ」を知っているだろうか。校内暴力が社会現象化していた21年前、TV放映された人気学園ドラマである。元全日本代表のスター選手が廃校した高校に赴任し、「信は力なり」の言葉のもと、熱血指導でラグビー部を率い、さまざまな困難を乗り越え、奇跡とも言われる日本一に至るまでの7年間を描いた感動の物語である。昨年9月には映画版「スクールウォーズHERO」も上映されたが、その熱血教師のモデルこそ山口良治さんである。

山口さんは、日本代表を引退後の1974年、約束されていた実業団チームの監督の座を捨て、伏見工業に赴任した。心を動かされたのは、その前に教育委員会から派遣された中学での問題児との出会いがあったから。「子どもがひどいことをしても注意もせず見届ぬふりをする教師、許せなかったんです」。荒れる生徒の気持ちは、7歳のとき母を病気で亡くし、継母との折り合いが悪く寂しい少年時代を送った自身と重なり、分かる気がしたという。この出会いによって、「俺は教師になりましたかっただけではないのか?と、忘れていた初心を取り戻した」。

校内きってのツッパリの集まりであるラグビー部の監督に就任し、ドラマでも有名になった言葉「愛とは、信じて待ち、許してやること」を地でゆくように、何度も裏切られながらも体当たりで指導を続けて生徒たちの心をつかみ、日本一へ挑戦していく。その体当たりの熱い指導は、NHK「プロジェクトX〜ツッパリ生徒と泣き虫先生」のDVDを是非見て欲しい。

ところで、山口さんの指は曲がり、今でも膝はガクガクしている。当時の練習は「整形外科医も驚くような身体」になるほど如何にすごいものだったか、うなずける。特に、体育教員を目指して日大から日体大に編入した年の夏合宿は、「私の原点で、人生の転機」と語るほど、私たちの想像を超えた過酷なものだったらしい。その極限を通して、山口さんは「本当に生きる力を学べた」という。以後、180cm・83kgの大型フランカーとして徹底的に鍛えられ、4年生の時には全関東に選出される。今日あるのは、当時の監督・綿井永寿元学長の厳しい指導と優しい心づかいのお陰という。「先生にはいつも怒られていましたが、地獄のような練習に耐えられたのも、ご自宅に呼んでいたたくさん、家族のように接していただいたからだだと思います」と、「泣き虫先生」らしく涙目で恩師の思い出を語る。

日体大では、「汗と感動の涙を流すことの大切さを、スポーツから学ばせてもらったことが大きい」と語る。また、「教育とは愛を育て、生きる力を伝えること。理屈でなく、スポーツを通してその力を子どもたちに体験させてあげたいという信念」も同時に学んだという。その熱い思いは、あの天才ラグーマン平尾誠二氏も自著の中で「伏見工では燃えるようなラグビーを経験した」と語っているように、確かに教え子たちに伝わっている。そんな山口さんから「今の日体大生は醒めている感じがする。自分の汗と涙を流すことに躊躇することなく、もっと熱く燃えた。自学生生活を送って欲しい!」と、最後に熱い言葉をいただいた。(10月5日、京都アクアリーナにて取材)

**PROFILE ●やまぐち・よしはる●**

1943年福岡県生まれ。  
中学までは野球少年だったが、若狭県林高校でラグビーに出会い、当時の強豪校日大に進学。その後、62年4月日体大に編入学。大学4年の時に全関東に選出される。卒業後、岐阜県立高校教員を経て、67年に京都市教育委員会に。66年日本代表入りを果たし、数々の国際試合に出場、名フランカーとして活躍。キャップ(対国のテストマッチ出場数)13。74年現役を退き、31歳で伏見工業高校の教職に就く。翌年、ラグビー部監督に就任。81年に悲願の全国制覇(以後、2回優勝)。平尾誠二・大木淳史などの名選手の育成だけでなく、教師を19人輩出するなど、その熱き指導は84〜85年に放映されたTVドラマ「スクールウォーズ」のモデルにもなり、多くの教育者の目標になっている。現在、京都市スポーツ政策顧問、京都アクアリーナ館長、浜松大学健康プロデュース学部教授、京都市立伏見工業高校ラグビー部総監督。著書は「熱き思いが壁を破る〜スクールウォーズ流、涙の教育論」(PHP)「生きる力を伝えたい〜泣き虫先生の熱血教育論」(幻冬舎)「17歳を語る」(青少年交流振興協会)など、多数。

# 大学院の紹介

05

N I T T A I D A I

に大学院紹介が始まり今回で5回目を数えます、今回は新たに研究科長に就任された伊藤孝教授より今後の抱負、学会活動状況を通しての研究活動報告、最後にシリーズとして

連載している「研究施設からみた大学院における研究活動」の5回目として床反力測定装置の紹介を行います。これらのご紹介を通じて大学院の様子を垣間見ていただければ幸いです。



## 1 研究科長より抱負

21世紀は「知」の時代とも、「知識基盤社会」の時代ともいわれています。本学大学院も同様の時代認識のもとで体育科学に関する新しい知識・情報・技術を生み出すべく、研究に取り組んでいます。トップアスリートを育成するためのトレーニング科学的・医学的研究、スポーツによる健康の維持・増進を図るための健康科学的・医学的研究、福祉の側面からのスポーツの必要性に関する人文・社会科学的研究などを通して、数多くの研究成果を内外に発信してきました。しかし、これからは国際的競争力を有する卓越した教育と研究の、体育科学領域に特化した拠点づくりをしなければなりません。また、我々の研究領域は現場の指導の実際と密接不可分の関係にあります。そのため教育と研究の拠点とし

## 3 研究施設からみた大学院における研究活動 その⑤床反力測定装置

大学院では日々体育・スポーツに関わる研究活動が展開されています。このシリーズでは本学大学院での研究活動にて頻繁に使用される機器・設備を通して本学にて展開される研究活動をご紹介します。今回は、第5回目は床反力測定装置です。

垂直跳びの動作では、両足を使って地面を真下に押し跳び上がります。また、斜め前方に跳び出そうとする時には、斜め後方へ地面をキックする力を発揮します。このように陸上で身体を移動させる場合には、進みたい方向とは反対の方向に力を発揮して、地面から跳ね返される力＝反力を使います。

フォースプレートは、この反力(地面反力、床反力などと呼ばれる)の「大きさ」と「方向」を調べることができる装置です。スポーツ科学の領域では動作分析とともに頻繁に使われており、用途や大きさ、値段について様々な種類があります。中でも精度が高く高価な装置では水晶がそのセンサーとして組み込まれているものもありますし、比較的安価なものではストレインゲージと呼ばれるセンサーが使われているタイプもあ

て大学院では「理論と実際の架橋」を強く意識した研究を要求するとともに、国際的に通用する高度な専門的知識・能力を有する指導者の養成も併せて図るべきだと考えています。

## 2 学会活動を通しての大学院の活動報告

秋は体育科学の分野における学会が盛んに開かれます。学会は日本国内外を問わず研究分野を共通にした研究者が日ごろの研究活動を発表し、その成果に関して評価あるいは批判を受ける場所です。大学院では学位論文のための研究活動が主になるため、学会参加および発表は大学院生にと

- ＜国内学会＞
  - 第13回日本運動生理学会大会 (2005年7月30～31日、東京都) →本学大学院からの発表数：1題
  - 第60回日本体力医学会大会 (2005年9月23～25日、岡山県) →本学大学院からの発表数：14題
- ＜国際学会＞
  - American College of Sports Medicine 52th Annual Meeting (2005年6月1日～4日、アメリカ合衆国) →本学大学院からの発表数：4演題
  - The 8th Asian Federation of Sports Medicine Congress (2005年6月10日～13日、新宿)：9演題
  - International Society of Biomechanics 20th Congress, (2005年6月31日～7月5日、アメリカ合衆国)：3演題



国際バイオメカニクス学会の様子

つては欠かせないものといえます。本学大学院からは現在国内外あわせて10以上の学会あるいは研究会に参加しています。左表は2005年度前半に本学大学院より学会発表が行われた主な学会およびその発表数です。その他年間を通じてスポーツ史学会、日本スポーツ人類学会、日本生理学会、日本体育学会、日本臨床スポーツ医学会、トレーニング科学研究会、日本バイオメカニクス学会、国際バイオメカニクス学会など多くの学会に参加、発表しています。

今後とも本大学院にて行われた研究活動の成果を学会等を通じて広く世に公開していくとともに、本学競技活動の強化などスポーツファーマンスへの還元も行ってみたいと考えています。

ります。測定される反力の大きさはN(ニュートン)という力の単位に変換され、また力の方向はx、y、zで表される空間座標に分解して記録、表示することが出来ます。では、この装置を使うどのようなことが調べられているのでしょうか。例えば、全力疾走時の片足が地面に接している間に、①その着地足からはどのくらい大きさの力が、どの方向に発揮されているのか、②何ヶ月かの反復練習や筋力トレーニングによって、それらがどのように変化したか、③一流選手の特徴はどうか、などといったことを調べる研究がなされています。また、動作分析のデータと合わせて分析すると、全体のキック力を発揮するために脚の各関節(股、膝、足関節)がどのようなバランスで力を発揮しているのか等の動作技術や障害に関連する研究も多く行われています。最近の本学での研究例をあげますと、健志台の陸

上トラックにフォースプレートを埋め込み、ハードル走の踏切や着地、または走幅跳の踏切の力を調べた研究や、小さなフォースプレートを作って自転車ペダルにはめ込み、ペダリングの力を調べる研究などが行われています。

## おわりに

本稿でご紹介しましたように本大学院ではスポーツ分野で活躍できる人材育成を目指して教育活動や研究活動が展開されており、その成果を幅広く公開すべく努力しております。本学大学院の研究分野やその具体的な成果に興味のある方は遠慮なくお問い合わせください。



フォースプレート (床反力測定装置)



— 第8回秩父宮記念スポーツ医・科学賞 —

**中嶋寛之教授が功労賞を受賞！  
岩原文彦助手(競泳サポートチーム代表)と  
伊藤雅充講師(高地トレーニングサポート研究班)が奨励賞を受賞！**

スポーツ医学分野で顕著な功績を表彰する「第8回秩父宮記念スポーツ医・科学賞」の受賞者が4月12日、日本体育協会会で決定した。大賞にあたる功労賞は本学の中嶋寛之教授に決定。奨励賞には本学の岩原文彦助手(本年4月1日採用、元国立スポーツ科学センター研究員)が代表の「北島康介選手を中心とした競泳選手への医・科学サポートチーム」と、伊藤雅充講師が一人である「高地トレーニング医・科学サポート研究班(代表 順天堂大学 青木純一郎教授)」がともに選ばれた。

中嶋教授はひざ関節外科の先駆者として「Nテスト」と呼

ばれる、ひざ前十字靭帯の画期的な診断方法を開発。アスリートのメディカルチェック・システム確立に貢献した。

岩原助手は「競泳サポートチーム」の代表として、北島選手を中心に約3年間に及ぶサポート活動を行い、アテネ五輪2冠達成に貢献した。

伊藤(雅)講師は「高地トレーニング研究班」の一員として、陸上、水泳、スキー、スケート、バイアスロン競技でデータ収集・分析を行い、効果的な高地トレーニングの研究に取り組み、競技力向上に貢献した。



中嶋寛之教授



岩原文彦助手



伊藤雅充講師

**『オープンキャンパス2005』報告**

入試広報室

平成17年7月24日と10月1日に横浜・健志台キャンパス、平成17年7月30日と9月11日に東京・世田谷キャンパスにおいて「オープンキャンパス」を開催した。

この催しは、高校生、保護者のみなさんに本学キャンパスへ足を運んでいただき、本学の教育理念、教育・研究内容、クラブ活動の状況、入試概要などについて理解を深めていただくことを目的としている。

|        |                        |        |
|--------|------------------------|--------|
| (参加者数) | 第1回 横浜・健志台キャンパス(7月24日) | 520名   |
|        | 第2回 東京・世田谷キャンパス(7月30日) | 1,164名 |
|        | 第3回 東京・世田谷キャンパス(9月11日) | 709名   |
|        | 第4回 横浜・健志台キャンパス(10月1日) | 492名   |
|        | 参加者総数                  | 2,885名 |

開催プログラムへは自由に参加できる形式で行った。

参加者からは「絶対日体大に合格したい!」「模擬授業を体験し、もっと日体大に入りたいと思った」「日体大で部活動に一生懸命取り組みたい!」「受験への意志が固まった」という声をいただいた。今後も高校生、保護者のみなさんにスポーツ文化創造のフィールドを体験していただけるよう充実した内容としたい。

- 【開催プログラム】
- 総合ガイダンス(主催者挨拶、学科・科の紹介、入試概要、学生生活・就職状況説明)
  - 授業体験(体育・スポーツ系、幼児教育系授業の体験)
  - 個別相談コーナー(学問・資格ブース、学生生活ブース、クラブ活動等のブース、就職ブース、入試ブースでの個別相談)
  - キャンパス案内ツアー(本学在学生がキャンパス施設案内案内)
  - 在学生と話そうコーナー(本学在学生とのフリートークスペース)
  - 大学・短大紹介ビデオ上映
  - 受験生応援セレモニー(応援団・チアリーダー部・体操部による受験生への応援)
  - 資料コーナー(入学試験過去問題等のさまざまな資料を配布)



**退職教員**

**坂 佳代子 (さか かよこ)**

1944(昭和19)年生まれ 宮崎県出身 宮崎女子高校から1963年日本体育大学入学 67年卒業後、本学助手、専任講師、助教授を経て、94年より教授として勤務。05年9月30日付けで本学を退職し、10月より宮崎県副知事に就任。68年メキシコ五輪、72年ミュンヘン五輪の代表選手としても活躍。

**平成17年度在籍者数**

■日本体育大学

平成17年5月1日現在

| 区分        | 1年          | 2年          | 3年          | 4年          | 合計           |
|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|
| 体育学科      | 788 (188)   | 791 (155)   | 868 (238)   | 946 (273)   | 3,393 (854)  |
| 健康学科      | 168 (59)    | 187 (90)    | 179 (94)    | 192 (95)    | 726 (338)    |
| 武道学科      | 130 (30)    | 124 (33)    | 119 (31)    | 135 (28)    | 508 (122)    |
| 社会体育学科    | 162 (31)    | 177 (47)    | 177 (55)    | 198 (50)    | 714 (183)    |
| 合計        | 1,248 (308) | 1,279 (325) | 1,343 (418) | 1,471 (446) | 5,341 (1497) |
| 体育専攻科     | 10 (1)      | —           | —           | —           | 10 (1)       |
| 大学院博士前期課程 | 37 (5)      | 30 (6)      | —           | —           | 67 (11)      |
| 大学院博士後期課程 | 7 (1)       | 9 (1)       | 9 (2)       | —           | 25 (4)       |

( )は女子数



平成17年度入学式(横浜・健志台キャンパス)

■日本体育大学女子短期大学部

| 区分  | 1年  | 2年  | 合計  |
|-----|-----|-----|-----|
| 体育科 | 138 | 131 | 269 |
| 保育科 | 60  | 62  | 122 |
| 合計  | 198 | 193 | 391 |

**藤丸真世さん(大学院前期1年)に  
東京消防庁消防総監感謝状**

6月1日(水)、東京・世田谷キャンパスにおいて、大学院博士前期課程(スポーツ文化・社会科学系)1年生のアテネオリンピック シンクロナイズドスイミングチーム銀メダリストである、藤丸真世(ふじまる みちよ)さんに、危険物災害の未然防止や危険物に関する知識の普及、啓発を目的に行われる「平成17年度危険物安全週間」(6月5日~6月11日)の啓発用ポスターに協力したとして、東京消防庁消防総監感謝状が贈られた。

このポスターは、藤丸真世さんをモデルに「危険物、凜と向き合うその姿勢!」をキャッチコピーとし、危険物の取り扱いもシミュレーションと同様に指先にいたるまでの緊張感が必要であり、その結果「安全」というメダルが得られることをイメージして作成されたものである。

(東京消防庁)  
ポスターは都内の駅・事業所・学校・町会掲示板等に掲出された。



東京消防庁マスコット「キュータ」君を手に笑顔の藤丸さん



左から  
川村雅博玉川消防署長  
浅野幸雄指導広報部長  
藤丸真世さん  
伊藤孝孝長

**横浜・健志台キャンパス陸上  
競技場がブルートラックに!**

横浜・健志台キャンパスの陸上競技場は、日本陸上競技連盟から第3種公認競技場の認定を受けた競技場であり、この2005年3月に改修が終了し、新たに生まれ変わった。

大学では国内で初めてとなる全面ブルートラックを採用し、表面のウレタンの仕上げは国立競技場、日産スタジアムなど同一仕様である「ローラーエンボス工法」を採用した。

また、これに加え、使用しているウレタンには最新の技術が導入された。それは「フィルクール」と呼ばれる工法。従来のウレタトラックは、夏場には表面温度が60度前後にもなり、熱中症などがおこる危険性が高かったが、フィルクール工法を用いることにより、表面温度を低く抑えることが可能になった。フィルクール工法を採用したのも大学としては国内初。

本学陸上競技部の水野増彦監督は「より安全で快適な練習環境で、日々のトレーニングを行うことができる」と語った。



## 同窓会から学生の皆様へ

早いもので、同窓会会長として2期目を迎えました。新役員と共に新しい体制で臨みますが、昨今、18歳人口の減少による大学全入時代への突入、学生のニーズの多様化、大学改革等、大学を取り巻く環境は日々大きく動いています。このような社会的な変化の中、同窓会として、大学並びに学生の皆さんとの様に関わって行くかを考えると、身の引き締まる思いがいたします。今、同窓会で抱えている最大の課題は、同窓会入会者の低迷です。ここ2～3年は年間300人前後です。原因として考えられるのは、同窓会として皆さんに対するピーアール不足による同窓会組織や同窓会事業が分かりづらくなっているのではないかと思います。また、皆さんの大学に対する帰属意識の低下もあるのではないのでしょうか。

これらを踏まえ、同窓会が卒業生のみならず、皆さんにとってもメリットになるような実践をしていかなければならないと思っています。その一つに皆さんの出口の確保、具体的には就職支援があります。今後、同窓会は、大学・保護者会と三位一体となって皆さんを支援して行きたいと考えています。次回からも、学生皆さんに、有意義な情報を提供したいと思っています。是非、ご一読ください。

同窓会本部 〒158-0081 東京都世田谷区深沢7-16-4 日体会館3階 TEL03-3704-0266 FAX03-3704-1817



会長 塔尾 武夫

## 平成17年度下半期 就職支援活動計画 問合せ先：就職課 TEL.03-5706-0905

| 行 事 名   | 対 象        | 開 催 日  | 場 所                        |
|---|------------|--|----------------------------|
| 企業・公務員、面接・マナーガイダンス  | 学部3年・短大1年  | 10月6日(木)   | 深沢・健志台                     |
| 幼稚園教諭、面接・マナーガイダンス   | 短大2年(保育科)  | 10月7日(金)   | 和泉                         |
| 第2回就職ガイダンス<br>一般常識模擬テスト(職業適性、職業能力)  | 学部3年・短大1年  | 10月8日(土)<br>10月15日(土)  | 健志台<br>深沢                  |
| 第3回就職ガイダンス(進路別講習会)<br>公務員対策/公務員採用試験の現状と現役学生による合格体験談<br>企業対策/教員採用試験の現状とOBによる合格体験談<br>企業対策/企業採用試験の現状と現役学生による合格体験談 | 学部3年・短大1年  | 10月11日(火)・18日(火) 公務員<br>10月12日(水)・19日(水) 教員<br>10月13日(木)・20日(木) 企業 | 深沢・健志台<br>深沢・健志台<br>深沢・健志台 |
| 未就職者フォローガイダンス   | 学部4年・短大2年  | 10月14日(金)  | 深沢・健志台                     |
| 第4回就職ガイダンス<br>(エントリーシート・面接講習会)  | 学部3年・短大1年  | 10月24日(月)・25日(火)<br>10月26日(水)・27日(木)                               | 深沢<br>健志台                  |
| 神奈川県警採用担当者ガイダンス   | 全学年        | 10月28日(金)  | 健志台                        |
| 第2回教員採用試験模擬テスト  | 全学年(教員希望者) | 10月29日(土)  | 深沢・健志台                     |
| 社会福祉士国家試験対策講座   | 健康学科       | 10月29日(土)～11月27日(日)  | 和泉                         |
| 第5回就職ガイダンス<br>(業界研究の仕方、業界情報)  | 学部3年・短大1年  | 10月31日(月)  | 深沢・健志台                     |
| 就職活動パソコンガイダンス<br>(リクナビの登録方法等)   | 学部3年・短大1年  | 11月1日(火)・2日(水)   | 健志台・深沢                     |
| 公務員講座(全50コマ)  | 全学年        | 11月8日(火)～12月19日(月)   | 健志台                        |
| 公務員採用担当者ガイダンス<br>(警察・消防・自衛官)  | 学部3年・短大1年  | 11月28日(月) 警察官・消防官<br>11月29日(火) 警察官・消防官<br>11月30日(水) 自衛官            | 深沢・健志台<br>深沢・健志台<br>深沢・健志台 |
| 教員採用試験1次対策ガイダンス<br>一次筆記対策(論作文、面接、一般・教職・専門)  | 学部3年・短大1年  | 12月8日(木) 保健体育<br>12月9日(金) 養護                                       | 深沢・健志台<br>深沢               |
| 小学校教諭免許取得のためのガイダンス<br>(玉川大学通信教育学部担当者による)  | 学部3年・短大1年  | 1月11日(水)・12日(木)  | 深沢・健志台                     |
| 学内合同企業説明会<br>企業採用担当者(30社予定)による学内企業説明会   | 学部3年・短大1年  | 1月14日(土)・16日(月)  | 未定                         |
| 教員採用試験対策講座(実力編) 全30コマ   | 学部3年・短大1年  | 1月23日(月)～27日(金)<br>2月6日(月)～10日(金)                                  | 深沢                         |
| 企業就職活動研修(2泊3日)  | 全学年        | 1月23日(月)～25日(水)  | 未定                         |
| 第3回教員採用試験模擬テスト・論文対策講座   | 全学年(教員希望者) | 1月30日(月)   | 和泉・健志台                     |
| 公務員採用試験模擬テスト  | 学部3年・短大1年  | 2月13日(月)・14日(火)  | 深沢・健志台                     |

## 05年度【上半期】クラブの主な大会成績

| クラブ名     | 大会名  | 結果   | 氏名   |
|----------|--|--|--|
| ■アーチェリー  | 関東学生リーグ戦   | 男子 優勝<br>女子 優勝   |  |
|          | 全日本学生東日本大会   | 女子 2位<br>女子 3位   | 大塚妙子<br>早川涼<br>橋本千春<br>村田明日香   |
|          | 関東学生オールラウンド大会<br>全日本学生王座決定戦<br>全日本学生個人選手権<br>全日本学生連盟杯<br>全日本学生カヌー選手権大会 | 女子リカーブ 優勝<br>男子 3位<br>女子 優勝<br>女子 優勝<br>男子総合 3位<br>男子カヌーペア1,000m 2位<br>男子カナディアシンキング10,000m 2位<br>男子カナディアペア10,000m 2位<br>男子カヤックリレー 3位<br>男子カヤックフォア 2位<br>男子カナディアペア1,000m 3位<br>女子総合 2位<br>女子カヤックフォア500m 優勝、カヤックリレー 2位   | 早川涼<br>日野崇之、平山太一<br>高橋正利<br>小島聡、阿部公貴<br>野村崇之、小西鉄也、高橋伸也、清口洋輔<br>日野崇之、橋本佳法、平山太一、小西鉄也<br>高川浩幸、高橋正利、河部公貴、小島聡             |
| 水泳(競泳)   | 日本選手権  | 男子500m平泳ぎ 優勝、1000m平泳ぎ 優勝、200m平泳ぎ 3位<br>男子800m自由形 3位、1500m自由形 2位<br>女子200m個人メドレー 3位、400m個人メドレー 2位<br>女子50mバタフライ 3位<br>女子50m平泳ぎ 4位<br>女子50m自由形 6位<br>男子1000m平泳ぎ 2位、200m平泳ぎ 2位<br>世界水泳選手権<br>国際学生大会<br>日本選手権  | 和田江美子、藤原智子、清水薫、瀧野早紀<br>高橋正(大学院)<br>齋藤武広<br>森下優子<br>松本賢一<br>依藤かほり(大学院)<br>松本賢一<br>北川康介(大学院)<br>北島康介(大学院)<br>北島康介(大学院) |
|          | ミッションビエラ国際大会<br>世界水泳選手権<br>国際学生大会<br>日本選手権                             | 男子50m平泳ぎ 2位、100m平泳ぎ 2位<br>男子100m平泳ぎ 3位、100m平泳ぎ 2位<br>男子 優勝<br>男子 優勝<br>男子 優勝<br>男子 優勝  | 野野友昭<br>石沢孝行<br>石沢孝行、江川克彦<br>野川優樹<br>野川優樹、三河麻衣子<br>江川克彦、石沢孝行<br>松井真<br>江川克彦  |
|          | 国際水泳グランプリ・ローマ大会<br>ユニバーシアード・イスマル大会<br>国際学生大会<br>日本選手権                  | 女子1メートル板飛び込み 20位<br>ユニバーシアード大会飛び込み 7位<br>成年女子 高飛び込み 5位<br>女子 3位<br>女子 3位<br>男子団体ベストB<br>男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位 | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
| 水泳(水球)   | 室内選抜大会   | 男子高飛び込み 2位<br>男子高飛び込み 3位<br>男子シנקロナイズド高飛び込み 優勝<br>男子メートル板飛び込み 3位<br>女子シנקロナイズド高飛び込み 3位<br>男子シנקロナイズド板飛び込み 2位<br>男子高飛び込み 優勝<br>男子板飛び込み 優勝、高飛び込み 優勝<br>男子学校対抗 優勝<br>女子学校対抗 2位  | 野野友昭<br>石沢孝行<br>石沢孝行、江川克彦<br>野川優樹<br>野川優樹、三河麻衣子<br>江川克彦、石沢孝行<br>松井真<br>江川克彦  |
|          | 日本選手権  | 男子 優勝<br>男子 優勝<br>男子 優勝<br>男子 優勝   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり   |
|          | 国際水泳グランプリ・ローマ大会<br>ユニバーシアード・イスマル大会<br>国際学生大会<br>日本選手権                  | 女子1メートル板飛び込み 20位<br>ユニバーシアード大会飛び込み 7位<br>成年女子 高飛び込み 5位<br>女子 3位<br>女子 3位<br>男子団体ベストB<br>男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位 | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
| 水球(飛び込み) | 室内選抜大会   | 男子高飛び込み 2位<br>男子高飛び込み 3位<br>男子シנקロナイズド高飛び込み 優勝<br>男子メートル板飛び込み 3位<br>女子シנקロナイズド高飛び込み 3位<br>男子シנקロナイズド板飛び込み 2位<br>男子高飛び込み 優勝<br>男子板飛び込み 優勝、高飛び込み 優勝<br>男子学校対抗 優勝<br>女子学校対抗 2位  | 野野友昭<br>石沢孝行<br>石沢孝行、江川克彦<br>野川優樹<br>野川優樹、三河麻衣子<br>江川克彦、石沢孝行<br>松井真<br>江川克彦  |
|          | 日本選手権  | 男子 優勝<br>男子 優勝<br>男子 優勝<br>男子 優勝   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり   |
|          | 国際水泳グランプリ・ローマ大会<br>ユニバーシアード・イスマル大会<br>国際学生大会<br>日本選手権                  | 女子1メートル板飛び込み 20位<br>ユニバーシアード大会飛び込み 7位<br>成年女子 高飛び込み 5位<br>女子 3位<br>女子 3位<br>男子団体ベストB<br>男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位 | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
| 水球(水球)   | 男子 優勝<br>男子 優勝<br>男子 優勝<br>男子 優勝                                       | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり   |  |
| 柔道       | 国際水泳グランプリ・ローマ大会<br>ユニバーシアード・イスマル大会<br>国際学生大会<br>日本選手権                  | 女子1メートル板飛び込み 20位<br>ユニバーシアード大会飛び込み 7位<br>成年女子 高飛び込み 5位<br>女子 3位<br>女子 3位<br>男子団体ベストB<br>男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位 | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 関東学生選手権大会<br>全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権                                  | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
| 剣道       | 関東学生選手権大会<br>全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権                                  | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
| サッカー     | 関東学生選手権大会<br>全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権                                  | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
| バレーボール   | 関東学生選手権大会<br>全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権                                  | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
| 卓球       | 関東学生選手権大会<br>全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権                                  | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
| テニス      | 関東学生選手権大会<br>全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権                                  | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
| バドミントン   | 関東学生選手権大会<br>全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権                                  | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
| ハンドボール   | 関東学生選手権大会<br>全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権                                  | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
| バスケットボール | 関東学生選手権大会<br>全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権                                  | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
| バレーボール   | 関東学生選手権大会<br>全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権                                  | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
| バレーボール   | 関東学生選手権大会<br>全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権                                  | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
| バレーボール   | 関東学生選手権大会<br>全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権                                  | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
| バレーボール   | 関東学生選手権大会<br>全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権                                  | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級 優勝(大会新)<br>女子69キロ級 2位<br>女子75キロ級 2位<br>男子75キロ級 3位<br>男子3級以上 優勝<br>女子3級以上 優勝<br>女子団体演技 優勝<br>女子団体 2位   | 野川優樹<br>野川優樹<br>四方田彩花<br>近賀ゆかり<br>笠井貴太<br>高津英  |
|          | 全日本学生選手権大会<br>全日本ジュニア選手権   | 男子60キロ級 2位<br>男子110キロ級 2位<br>女子団体ベストB<br>男子47キロ級 優勝<br>男子58キロ級 6位<br>女子63キロ級   |  |